



Cisco Unified CallManager Release 5.1(1) インストレーションガイド

Cisco Unified CallManager の 5.0(x) リリースのインストールの枠組みは、以前のリリースと異なるため、Cisco Unified CallManager 5.1(1) をインストールする前に、すべてのインストール手順をよく確認してください。

このマニュアルでは、Cisco Unified CallManager Release 5.1(1) を 1 台のサーバ、またはクラスタ環境の複数のサーバにインストールする方法について説明します。

目次

本書の内容は、次のとおりです。

- [インストールの概要](#)
- [関連資料](#)
- [重要な考慮事項](#)
- [Cisco Unified CallManager のインストールに関する FAQ 情報](#)
- [ブラウザ要件](#)
- [ハードウェアの設定](#)
- [Cisco Unified CallManager のインストール](#)
- [インストール用の情報の収集](#)
- [新しいオペレーティングシステムとアプリケーションのインストール](#)
- [インストール後の作業](#)
- [ログファイルの検査](#)
- [技術情報の入手方法](#)
- [テクニカルサポート](#)
- [その他の資料および情報の入手方法](#)

インストールの概要

Cisco Unified CallManager 5.0(x) は、以前のリリースと異なるインストールの枠組みを使用します。インストールプロセスでは、基本的なインストール、Cisco Unified CallManager 4.x から Cisco Unified CallManager 5.1(1) へのアップグレード、およびインストール中の新しいサービス リリースへのアップグレードを実行できます。

インストールのタイプについては、表 1 を参照してください。

表 1 インストールオプション

インストールのタイプ	説明
Basic Install	このオプションは、基本的な Cisco Unified CallManager 5.1(1) のインストールを表します。インストール ディスクからソフトウェアをインストールし、インポート データは使用しません。
Upgrade During Install	このオプションを使用すると、インストール ディスクに含まれているソフトウェア バージョンを最新のサービス リリースでアップグレードできます。また、Upgrade During Install の後で Windows Upgrade を選択すると、インストールプロセス中に両方が実行されます。
Windows Upgrade	このオプションを使用すると、Data Migration Assistant (DMA) ツールで生成したファイルを使用して、Cisco Unified CallManager 4.x システムのデータベース情報をインポートできます。



(注)

このマニュアルでは、最初の 2 つのタイプのインストール (Basic Install と Upgrade During Install) だけを説明します。Windows Upgrade の実行の詳細については、『Cisco Unified CallManager アップグレード手順』を参照してください。

関連資料

Cisco Unified CallManager をインストールするときは、事前に次の資料を参照しておくことを強く推奨します。

- 『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』および『Cisco Unified CallManager システムガイド』

『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』では、Cisco Unified CallManager による Voice over IP ネットワークの設定、保守、および管理を行う際の作業をステップごとに説明しています。

『Cisco Unified CallManager システムガイド』では、Cisco Unified CallManager システムの概要およびそのコンポーネント、設定用チェックリスト、および『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の手順に関連するリンクについて記述しています。
- Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド*

この資料では、Cisco Music On Hold や Cisco Unified CallManager エクステンション モビリティ など、Cisco Unified CallManager の機能およびサービスを設定する方法について説明しています。
- 『Cisco Unified CallManager Serviceability システム ガイド』および『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』

これらの資料では、Cisco Unified CallManager のサービスアビリティ プログラム、およびリモート サービスアビリティ ツールについて説明しています。また、アラーム、トレース、およびその他のレポート機能の設定については、ステップごとに説明しています。
- Disaster Recovery System アドミニストレーションガイド*

この資料では、バックアップ設定の構成、Cisco Unified CallManager データのバックアップ、およびデータの復元方法について説明しています。
- Data Migration Assistant ユーザ ガイド*

この資料では、以前のバージョンの Cisco Unified CallManager から Cisco Unified CallManager 5.0(x) にデータを移行する手順について説明しています。
- Cisco Unified Communications Operating System アドミニストレーションガイド*

この資料では、プラットフォームで使用できるユーティリティへのアクセス方法と使用方法を説明しています。新しいロケールのインストール方法についても説明しています。
- Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド*

この資料では、Cisco Unified CallManager、Cisco Unified IP Phone、SRST リファレンス、および Cisco MGCP ゲートウェイの設定方法および認証と暗号化に関する、トラブルシューティングの方法を説明しています。
- Cisco Unified CallManager アップグレード手順*

この資料では、Cisco Unified CallManager 4.x から Cisco Unified CallManager 5.1(1) にアップグレードする方法について説明しています。

表 2 に、ソフトウェアおよびその他の資料への URL を示します。

表 2 関連資料の入手先 URL

関連情報およびソフトウェア	URL
Cisco MCS のデータ シート	http://www.cisco.com/en/US/products/hw/voiceapp/ps378/index.html
ソフトウェア専用のサーバ (IBM、HP、Compaq、Aquarius)	http://www.cisco.com/en/US/products/hw/voiceapp/ps378/prod_brochure_list.html
<i>Cisco Unified CallManager Compatibility Matrix</i>	http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_callmg/ccmcomp.htm

表 2 関連資料の入手先 URL (続き)

関連情報およびソフトウェア	URL
Cisco Unified CallManager の資料	http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_callmg/index.htm
Cisco Unified CallManager セキュリティガイド	http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_callmg/sec_vir/ae/index.htm
Cisco Unified CallManager のバックアップと復元の資料	http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/backup/index.htm
Cisco Unified CallManager サービス リリース	http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml
Cisco IP テレフォニー アプリケーション関連資料	http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/index.htm

重要な考慮事項

Cisco Unified CallManager のインストールは、次の要件および推奨事項を考慮してから実行してください。

- Cisco Unified CallManager 5.1(1) を既存のサーバにインストールするときは、ハードディスク ドライブがフォーマットされ、そのドライブの既存データが上書きされます。
- Cisco Unified CallManager ソフトウェアは、最初のノードまたはパブリッシャ サーバにインストールしてから、後続ノードにインストールします。
- インストール先の後続ノード サーバがインストール中に最初のノード サーバに接続できることを確認します。
- クラスタ内のすべてのサーバに対して、同一のセキュリティ パスワードを入力します。
- コール処理の中断による影響を回避するため、Cisco Unified CallManager ソフトウェアは、オフピーク時またはメンテナンス ウィンドウが表示されているときにインストールします。
- 静的 IP アドレッシングを使用してサーバを構成することで、サーバが確実に固定 IP アドレスを取得し、Cisco Unified IP Phone のネットワーク接続時にそれらの IP Phone がアプリケーションに登録されるようにします。
- インストール中は、どのような設定作業も実行しないでください。
- クラスタ内のすべてのサーバで Cisco Unified CallManager のインストールが完了するまで、シスコで検証されたどのようなアプリケーションもインストールしないでください。
- インストールを開始する前に、次の説明を十分注意して読んでください。

Cisco Unified CallManager のインストールに関する FAQ 情報

この項では、頻繁に寄せられる質問とそれに対する回答を紹介します。Cisco Unified CallManager のインストールを実行する前に、この項の内容を十分に確認してください。

Cisco Unified CallManager のインストールには、どのくらいの時間を要しますか

インストール全体のプロセスには、サーバのタイプに応じてサーバ 1 台当たり 45 ～ 90 分を要します（インストール前およびインストール後の作業は除く）。Cisco Unified CallManager をインストールする前に、クラスタのサイズを検討してください。

どのパスワードを指定する必要がありますか

Cisco Unified CallManager のインストール中に、次のユーザ名とパスワードを指定する必要があります。

- Administrator アカウント

Administrator ユーザ名とパスワードを使用して、次の領域にログインします。

- Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理ページ
- 障害復旧システム
- コマンドライン インターフェイス

Administrator ログインは、先頭が英文字で、6 文字以上にする必要があります。英数字、ハイフン、下線を使用できます。コマンドライン インターフェイスを使用して、Administrator パスワードの変更および新しい Administrator アカウントの追加ができます。詳細については『Cisco Unified Communications Operating System アドミニストレーションガイド』を参照してください。

- アプリケーション ユーザ パスワード

次のデフォルト アプリケーション ユーザ名に対して、アプリケーション ユーザ パスワードを使用します。

- CCMAAdministrator
- CCMSysUser
- WDSysUser
- CCMQRTSysUser
- IPMASysUser
- WDSecureSysUser
- CCMQRTSecureSysUser
- IPMASecureSysUser

各アプリケーションのアプリケーション ユーザ パスワードは、Cisco Unified CallManager の管理ページで変更できます。詳細については『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』を参照してください。

- Database Access Security パスワード

システムは、このパスワードを使用して、ノード間の通信を認証します。このパスワードは、クラスタ内のすべてのノードで同じにする必要があります。

Database Access Security パスワードは、先頭が英数字で、6 文字以上にする必要があります。英数字、ハイフン、下線を使用できます。

シスコがインストールをサポートしているのは、どのようなサーバですか

サポート対象サーバについては、ご使用のバージョンの Cisco Unified CallManager のリリース ノート を参照してください。リリース ノートには次の URL からアクセスできます。

http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_callmg/5_0/rel_note/index.htm

Cisco Unified CallManager のほかに別のソフトウェアをサーバにインストールできますか

Cisco Unified CallManager 5.1(1) では、Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理ページの [ソフトウェアアップグレード] メニュー オプションを使用して、すべてのソフトウェア インストールおよびアップグレードを行う必要があります。システムがアップロードおよび処理できるソフトウェアは、シスコが承認したソフトウェアだけです。Cisco Unified CallManager の以前のバージョンで使用していたサードパーティまたは Windows ベースのソフトウェア アプリケーションを、Cisco Unified CallManager 5.1(1) と共にインストールしたり使用したりすることはできません。

ブラウザ要件

Cisco Unified CallManager の管理機能、Cisco Unified CallManager のサービスアビリティ機能、および Cisco Unified Communications Administration には、次のブラウザでアクセスできます。

- Microsoft Internet Explorer バージョン 6.0 以降
- Netscape Navigator バージョン 7.1 以降





(注)

Mozilla Firefox など、その他のブラウザではテストをしていないため、サポート対象外です。

インストールオプション

インストールを再開した後、表 3 に示すオプションのいずれかを選択するように要求されます。

表 3 インストールオプション

インストールオプション	説明
Basic Install	このオプションは基本的なインストールを表し、インポートデータは使用しません。
Upgrade During Install	<p>このオプションを使用すると、システムを設定する前に、プリインストールソフトウェアを最新のサービスリリースでアップグレードできます。また、Upgrade During Install の後で Windows Upgrade を選択すると、インストールプロセス中に両方が実行されます。</p> <p> (注) このオプションを選択する前に、ソフトウェアイメージが DVD またはリモートサーバで使用可能になっていることを確認してください。</p>
Windows Upgrade	<p>このオプションを使用すると、既存の Cisco Unified CallManager サーバをアップグレードするときに DMA ツールが生成した TAR ファイルをインポートできます。</p> <p> (注) Windows Upgrade の実行の詳細については、『Cisco Unified CallManager アップグレード手順』を参照してください。</p>

ハードウェアの設定

ソフトウェア インストールの一部として、システム インストーラは、システム BIOS および RAID の設定を、新しいオペレーティング システムおよび Cisco Unified CallManager アプリケーション用に設定します。インストール中に設定される BIOS 設定については表 4 を、RAID 設定については表 5 を参照してください。




(注)

インストール中にハードウェア設定プロセスが失敗した場合、IBM サーバと HP サーバの両方にあるブート時ユーティリティを使用して、表 4 および表 5 のように手動で RAID と BIOS の設定を構成します。

表 4 HP および IBM サーバの BIOS コンフィギュレーション設定

HP サーバ	IBM サーバ
OS Selection : Linux (新しいモデルには適用されません)	OS Selection : 適用されません
Boot order : CD, C:, Floppy	Boot order : CD, C:, Floppy
Post F1 prompt : Delayed	Post F1 prompt : Delayed
Hyperthreading : Enabled	Hyperthreading : Enabled

表 5 RAID 設定

MCS 7825 サーバ (HP および IBM)	MCS 7835 サーバ (HP および IBM)	MCS 7845 サーバ (HP および IBM)
Software RAID	Logical drives : 1	Logical drives : 2
Software RAID	RAID type : 1(1+0)	RAID type : 1(1+0)
 (注) HP 7825H1 および IBM 7825I1 では、SATA RAID が有効、RAID タイプが 1(1+0)、論理ドライブが 1 です。		

Cisco Unified CallManager のインストール

次の項で、最初のノードと後続ノードをインストールする手順を説明します。インストールを実行する前に、次の項をよく確認してください。

- [インストール用の情報の収集 \(P.9\)](#)
- [インストール中のネットワーク エラーの処理 \(P.15\)](#)
- [新しいオペレーティング システムとアプリケーションのインストール \(P.16\)](#)
- [インストール後の作業 \(P.24\)](#)

インストール用の情報の収集

表 6 を使用して、Cisco Unified CallManager サーバに関する情報を記録します。クラスタにインストールしようとする Cisco Unified CallManager サーバごとに、これらの情報を用意します。すべての情報を取得する必要はありません。システムおよびネットワーク設定に関連のある情報だけを収集します。DMABackupInfo.inf ファイルを使用してシステムを設定する場合でも、この表をコピーして、各サーバのエントリを個別の表に記録する必要があります。



(注)

一部のフィールドは省略可能で、設定に適用されないことがあります。たとえば、SMTP ホストの設定は省略できます。



注意


一部のフィールドはインストール後に変更できません。変更するにはソフトウェアの再インストールが必要になります。正しい値を入力するように注意してください。

表の最後の列は、インストール後にそのフィールドを変更できるかどうか、変更できる場合は、Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理ページとコマンドライン インターフェイス (CLI) のどちらで変更できるかを示します。

表 6 設定データ

設定データ	ユーザ入力欄	インストール後にエントリを変更できるか
Administrator Password		はい CLI > set password admin
Application User Password		はい CLI > set password
Country		はい CLI > set web-security
DHCP		はい CLI > set network dhcp
DNS Primary		はい CLI > set network dns
DNS Secondary		はい CLI > set network dns
Domain		はい CLI > set network domain
Domain Name Service DNS Enable		いいえ

表 6 設定データ (続き)

設定データ	ユーザ入力欄	インストール後にエントリを変更できるか
Gateway Address		はい [Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理] > [設定] > IP または CLI > set network gateway
Host Name		いいえ
IP Address		はい [Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理] > [設定] > IP または CLI > set network IP
IP Mask		はい [Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理] > [設定] > IP または CLI > set IP
Location		はい CLI > set web-security
Master Administrator ID		いいえ
NTP Server IP Address		はい [Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理] > [設定] > [NTP サーバ]
 (注) 最大 5 つの NTP サーバを入力できます。		
Organization		はい CLI > set web-security
Security Password		はい CLI > set password security
SMTP Location		はい CLI > set smtp
State		はい CLI > set web-security
Time Zone		はい CLI > set timezone
Unit		はい CLI > set web-security

各インストールフィールドの詳細については、表 7 を参照してください。

表 7 インストールフィールドの定義



フィールド	説明	使用方法
Administrator ID	このフィールドは、このアカウントに割り当てる名前を指定します。	<p>名前は一意にする必要があります。小文字、英数字、ハイフン、下線を使用できます。先頭は小文字の英数字にする必要があります。</p> <p>この必須フィールドは、プラットフォームの CLI または Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理ページにログインするときに使用するために、記録する必要があります。</p> <p> (注) このフィールドは、インストール後に変更できません。</p>
Administrator Password	このフィールドは、プラットフォームの CLI および Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理ページにログインするために使用するパスワードを指定します。	<p>パスワードは 6 文字以上にする必要があります。英数字、ハイフン、下線を使用できます。</p> <p>この必須フィールドは、Cisco Unified CallManager にログインするときに使用するために、記録する必要があります。</p>
DHCP	Dynamic Host Configuration Protocol。	<p>DHCP を使用して、サーバのネットワーク設定を自動的に設定する場合は、Yes を選択します。</p> <p>No を選択した場合は、ホスト名、IP アドレス、IP マスク、ゲートウェイを入力する必要があります。</p>
DNS Enabled	<p>DNS サーバは、ホスト名を IP アドレスに、または IP アドレスをホスト名に解決するデバイスを表します。</p> <p> (注) インストールが完了した後で、DNS 設定を変更することはできません。DNS 設定を変更するには、Cisco Unified CallManager を再インストールする必要があります。</p>	<p>DNS サーバがない場合は、No を入力します。DNS が無効になっている場合は、Cisco Unified Communications ネットワークのすべてのネットワークデバイスの IP アドレス（ホスト名ではなく）だけを入力する必要があります。</p> <p>DNS サーバがある場合は、Yes を入力して DNS を有効にすることを推奨します。DNS を無効にすると、一部を除き、システムでドメイン名の解決ができなくなります。</p>

表 7 インストール フィールドの定義 (続き)

フィールド	説明	使用方法
DNS Primary	Cisco Unified CallManager は、ホスト名を解決しようとするとき、最初にこの DNS サーバに接続します。	プライマリ DNS サーバとして指定する DNS サーバの IP アドレスを入力します。ddd.ddd.ddd.ddd のドット付き 10 進数形式で IP アドレスを入力します。ここで、ddd の値は 0 ~ 255 です (0.0.0.0 は除く)。 DNS を Yes に設定した場合、このフィールドは必須です。
DNS Secondary	プライマリ DNS サーバに障害が発生した場合、Cisco Unified CallManager は、セカンダリ DNS サーバに接続しようとします。	このオプションフィールドに、セカンダリ DNS の IP アドレスを入力します。ddd.ddd.ddd.ddd のドット付き 10 進数形式で IP アドレスを入力します。ここで、ddd の値は 0 ~ 255 です (0.0.0.0 は除く)。
Domain	このフィールドは、このマシンがあるドメインの名前を表します。	DNS を Yes に設定した場合、このフィールドは必須です。
First Cisco Unified CallManager Node	このフィールドで、データベースが含まれる最初の Cisco Unified CallManager ノードを指定します。 後続ノードは、最初のノードに接続してデータベースの内容にアクセスします。 また、最初のノードは外部 NTP サーバと同期し、他のノードに時間を提供します。	クラスタで最初の Cisco Unified CallManager ノードを設定するときは、 Yes を選択します。 後続ノードを設定するときは、他のフィールドについて表 7 を参照してください。
Gateway Address	ゲートウェイは、他のネットワークへの入り口として機能するネットワーク ポイントを表します。発信パケットはゲートウェイに送信され、最終的な宛先に転送されます。	ddd.ddd.ddd.ddd の形式でゲートウェイの IP アドレスを入力します。ここで、ddd の値は 0 ~ 255 です (0.0.0.0 は除く)。 ゲートウェイがない場合も、このフィールドは空白にせず、255.255.255.255 を設定する必要があります。ゲートウェイがない場合、通信できるデバイスは、同じサブネットのデバイスに限られます。
Hostname	ホスト名は、ホストを識別する IP アドレスに割り当てられている別名を表します。	ネットワークで一意的なホスト名を入力します。 ホスト名は最大 64 文字で、英数字とハイフンを使用できます。 DHCP を No に設定した場合、このフィールドは必須です。

表 7 インストール フィールドの定義 (続き)





フィールド	説明	使用方法
IP Address	このフィールドで、このマシンの IP アドレスを指定します。このネットワークでサーバを一意に識別します。このネットワーク内の別のマシンで、この IP アドレスを使用しないでください。	ddd.ddd.ddd.ddd の形式で IP アドレスを入力します。ここで、ddd の値は 0 ~ 255 です (0.0.0.0 は除く)。 DHCP を No に設定した場合、このフィールドは必須です。
IP Mask	このフィールドで、このマシンの IP サブネット マスクを指定します。サブネット マスクと IP アドレスで、ネットワークアドレスとホストアドレスを定義します。	ddd.ddd.ddd.ddd の形式で IP マスクを入力します。ここで、ddd の値は 0 ~ 255 です (0.0.0.0 は除く)。 有効なマスクは、左側に「1」ビットが連続し、右に「0」ビットが連続します。 たとえば、255.255.240.0 は有効なマスクです (11111111.11111111.11110000.00000000)。 255.255.240.240 は無効なマスクです (11111111.11111111.11110000.11110000)。
NIC Speed	このフィールドで、サーバの Network Interface Card (NIC; ネットワーク インターフェイスカード) の速度 (1 秒あたりのメガビット数) を指定します。	指定できる速度は 10 または 100 です。
NIC Duplex	このフィールドで、サーバ NIC の二重設定を指定します。	指定できる設定は half または full です。
NTP Server	このフィールドで、同期をとる NTP サーバを識別します。	1 つ以上の NTP サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。  (注) 後で、別の NTP サーバを追加したり、NTP サーバリストを変更したりできます。
NTP Server Enable	有効にした場合、このサーバは NTP サーバとして機能し、クラスタの後続ノードに最新の時間を提供します。	このマシンを NTP サーバとして有効にするには、 Yes を選択します。

表 7 インストール フィールドの定義 (続き)

フィールド	説明	使用方法
Security Password	<p>クラスタの Cisco Unified CallManager サーバは、セキュリティ パスワードを使用して相互に通信します。</p> <p>クラスタの各後続ノードに、同じセキュリティ パスワードを入力するように要求されます。</p>	<p>セキュリティ パスワードを入力します。</p> <p>確認パスワード フィールドに、同じパスワードを入力します。</p> <p>パスワードには、6 文字以上の英数字を使用する必要があります。ハイフンと下線は使用できますが、先頭は英数字にする必要があります。</p> <p> 注意 クラスタ内のすべてのノードに対して、同一のパスワードを入力する必要があります。</p>
Set Hardware Clock	<p>このフィールドで、マシンの日付と現地時間を指定します。</p> <p> (注) ハードウェア クロックを手動で設定する場合、ノードは時間同期に外部の NTP サーバを使用しません。</p>	<p>選択した時間帯の日付と現地時間を設定する場合は、Yes を選択します。</p> <p>時間は、24 時間形式で入力します。</p> <p> (注) 外部 NTP サーバを設定する場合、ハードウェア クロックは自動的に設定されます。</p>
SMTP	<p>このフィールドで、電子メールの発信に使用する SMTP ホストの名前を指定します。</p>	<p>SMTP サーバのホスト名またはドット付き IP アドレスを入力します。ホストには、英数字、ハイフン、ピリオドを使用できます。ホスト名の先頭は、英数字にする必要があります。</p> <p>電子通知を使用する場合は、このフィールドに入力する必要があります。使用しない場合は、空白のままでもかまいません。</p>
Subnet IP Address	<p>サブネット アドレスを入力して、この NTP サーバに照会するためのアクセスを許可する IP アドレスの範囲を指定します。</p>	<p>NTP サーバへのアクセスを許可する IP サブネットを入力します。</p> <p>インストール中に入力できるサブネットは、2 つだけです。</p>
Subnet Mask	<p>このフィールドで、サブネット アドレスのサブネット マスクを指定します。</p>	<p>IP サブネットのサブネット マスクを入力します。</p>
Time zone	<p>このフィールドで、現地時間帯とグリニッジ標準時 (GMT) からのオフセットを指定します。</p>	<p>時間帯を変更する場合は、Yes を選択します。</p> <p>マシンがある場所に最も近い時間帯を選択します。</p>

インストール中のネットワーク エラーの処理

インストール プロセスでは、入力したネットワーク設定でサーバがネットワークに正常に接続できるかどうかインストール プログラムによって検証されます。正常に接続できない場合は、メッセージが表示され、次のいずれかのオプションを選択するように要求するプロンプトが表示されます。

- **RETRY** : インストール プログラムがネットワークングを再び検証しようとします。検証に再度失敗すると、エラー ダイアログボックスが再び表示されます。
- **REVIEW (Check Install)** : ネットワーク設定を確認して変更できます。インストール プログラムはネットワーク設定ウィンドウに戻ります。

各ネットワーク ウィンドウの完了後にネットワークングが検証されるため、メッセージが複数回表示されることがあります。ネットワーク設定ウィンドウの確認中にメッセージが表示された場合は、**IGNORE** を選択して次のウィンドウに移動します。**REVIEW** を選択すると、最初のネットワーク設定ウィンドウが再び表示されます。

- **HALT** : インストールが一時停止します。インストール ログ ファイルを USB ディスクにコピーして、ネットワーク設定のトラブルシューティングに役立てることができます。
- **IGNORE** : インストールを続行します。ネットワーク エラーがログに記録されます。場合によっては、インストール プログラムがネットワークングを複数回検証するため、このエラー ダイアログボックスが複数回表示されることがあります。

新しいオペレーティング システムとアプリケーションのインストール

オペレーティング システムと Cisco Unified CallManager アプリケーションをインストールする前に、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** インストール DVD をトレイに挿入し、サーバを再起動して、DVD からブートします。サーバのブート シーケンスが完了した後、Media Check ウィンドウが表示されます。



(注) 新しいサーバに Cisco Unified CallManager がプリインストールされている場合は、DVD からインストールする必要はありません。P.17 の「Skip を選択した場合」の手順に直接進みます。

- ステップ 2** Media Check に表示されるチェックサムが Cisco.com でリリースされているチェックサムと一致することを確認します。

メディア チェックが完了すると、Media Check Result ウィンドウが表示されます。

- ステップ 3** Media Check Result に Pass と表示された場合は、**OK** を選択してインストールを続行します。

Media Check でメディアの障害が検出された場合は、別のコピーを Cisco.com からダウンロードするか、シスコから別のディスクを直接入手してください。

OK を選択した後、システム インストーラは次のようなさまざまなハードウェア チェックを実行し、システムが Cisco Unified CallManager 5.1(1) 用に正しく設定されていることを確認します。

- まず、インストール プロセスは、ドライバが正しいことを確認します。次の警告が表示されることがあります。

Drivers not found, do you want to install manually?

Yes を選択して、インストールを続行します。

- 次に、ハードウェア プラットフォームがサポート対象かどうかを確認します。サーバが正しいハードウェア要件を満たしていない場合、インストール プロセスは致命的なエラーで失敗します。この失敗が間違いであると考えられる場合は、エラーをキャプチャして、シスコのサポートに報告してください。
- 次に、RAID 設定と BIOS 設定を確認します。インストール プロセスがハードウェア設定を変更した場合、システムを再起動するように要求するプロンプトが表示されます。

ハードウェア チェックが完了した後、Overwrite Hard Drive ウィンドウが表示されます。

- ステップ 4** **Overwrite Hard Drive** ウィンドウには、ハードディスク ドライブにある現在のソフトウェア バージョン（存在する場合）と、DVD のバージョンが表示されます。インストールを続行するには **Yes** を選択します。取り消すには **No** を選択します。



注意

Overwrite Hard Drive ウィンドウで **Yes** を選択すると、ハードディスク ドライブ上の既存のすべてのデータが上書きされ、失われます。

Platform Installation Wizard ウィンドウが表示されます。

ステップ5 ここでプラットフォームを設定するには、**Proceed** を選択します。後でプラットフォームを設定するには、**Skip** を選択します。

- ここでソフトウェアをインストールし、設定する場合は、**Proceed** を選択して、P.17 の「**Proceed を選択した場合**」に進みます。
- ここでソフトウェアをインストールし、後で設定する場合は、**Skip** を選択して、P.17 の「**Skip を選択した場合**」に進みます。

Skip を選択した場合

サーバに Cisco Unified CallManager がプリインストールされている場合、または Platform Installation Wizard ウィンドウで **Skip** を選択した場合は、ここから開始します。

ステップ6 システムを再起動した後、Preexisting Installation Configuration ウィンドウが表示されます。USB ドライブまたはフロッピーディスクに設定情報がある場合は、ここで挿入します。



(注) システムが新しいハードウェアを検出したというポップアップ ウィンドウが表示された場合は、任意のキーを押し、次のウィンドウで **Install** を選択します。



(注) Data Migration Assistant で作成したファイルがある場合は、『Data Migration Assistant ユーザガイド』を参照してください。

ステップ7 **OK** を選択して続行します。

Platform Installation Wizard ウィンドウが表示されます。

ステップ8 **Proceed** を選択して、インストールを続行します。

Upgrade During Install ウィンドウが表示されます。P.17 の「**Proceed を選択した場合**」に進みます。

Proceed を選択した場合

ステップ9 次の手順に従って、実行するインストールのタイプを選択します。インストール オプションの詳細については、表 3 を参照してください。

- a. Upgrade During Install ウィンドウで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - インストール中にソフトウェアの新しいサービス リリースにアップグレードするには、**Yes** を選択します。P.18 の「**Upgrade During Install**」に進みます。
 - この手順をスキップするには、**No** を選択します。
 - 前のウィンドウに戻るには、**Back** を選択します。
- b. Windows Upgrade ウィンドウで、**No** を選択します。



(注) Windows Upgrade (Cisco Unified CallManager の Windows バージョンから Cisco Unified CallManager 5.1(1) へのアップグレード) を実行するには、詳細については『Upgrading to Cisco Unified CallManager』を参照してください。

- c. DVD のソフトウェア バージョンをインストールするか、またはプリインストールされているソフトウェアを設定するには、Basic Install ウィンドウで **Continue** を選択します。P.20 の「基本インストール」に進みます。

Upgrade During Install

Upgrade During Install ウィンドウで **Yes** を選択した場合、インストール ウィザードは、まず DVD のソフトウェア バージョンをインストールし、システムを再起動します。次に、特定のネットワーク設定パラメータ値とアップグレード ファイルの場所を入力するように要求するプロンプトが表示されます。

- ステップ 10** システムを再起動した後、Platform Installation Wizard ウィンドウが表示されます。 **Proceed** を選択して、インストールを続行します。

Upgrade During Install ウィンドウが表示されます。



(注) インストーラが新しいハードウェアを検出したというポップアップ ウィンドウが表示された場合は、任意のキーを押し、次のウィンドウで **Install** を選択します。

- ステップ 11** **Yes** を選択します。

Install Upgrade Retrieval Mechanism Configuration ウィンドウが表示されます。

- ステップ 12** アップグレード ファイルを取得するアップグレード取得メカニズムを選択します。

- **SFTP** : Secure File Transfer Protocol (SFTP) を使用して、リモート サーバからアップグレード ファイルを取得します。P.19 の「リモート サーバからのアップグレード」に進みます。
- **FTP** : File Transfer Protocol (FTP) を使用して、リモート サーバからアップグレード ファイルを取得します。P.19 の「リモート サーバからのアップグレード」に進みます。
- **LOCAL** : ローカル CD または DVD からアップグレード ファイルを取得します。P.18 の「ローカル ディスクからのアップグレード」に進みます。

ローカル ディスクからのアップグレード

ローカル ドライブからアップグレードする前に、適切なパッチ ファイルを Cisco.com からダウンロードし、ファイルを CD または DVD にコピーする必要があります。ほとんどの場合、パッチ ファイルのサイズが大きいため、DVD にコピーする必要があります。

パッチファイル名は次の形式です。

```
cisco-ipt-k9-patchX.X.X.X-X.tar.gz.sgn
```

ここで、X.X.X.X-X はリリースおよびビルド番号を表します。



(注) インストール前にパッチ ファイルの名前を変更しないでください。有効なファイルであると認識されなくなります。

ステップ 13 Local Patch Configuration ウィンドウが表示されたら、必要に応じてパッチ ディレクトリとパッチ名を入力し、**OK** を選択します。



(注) パッチが CD または DVD のルート ディレクトリ以外に保管されている場合だけ、パッチ ディレクトリを入力する必要があります。

Install Upgrade Patch Selection Validation ウィンドウが表示されます。

ステップ 14 ウィンドウに、CD または DVD で使用可能なパッチ ファイルが表示されます。**Continue** を選択して、このパッチでシステムをアップデートします。

リモート サーバからのアップグレード

リモート サーバへの FTP または SFTP 接続でアップグレードする場合は、まず、ネットワーク設定を構成する必要があります。

Auto Negotiation Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 15 インストール プロセスは、自動ネゴシエーションを使用して、イーサネット ネットワーク インターフェイス カード (NIC) の速度と二重設定を自動的に設定します。この設定は、インストール後に変更できます。

- 自動ネゴシエーションを有効にするには、**Yes** を選択します。DHCP Configuration ウィンドウが表示されます。



(注) このオプションを使用するには、ハブまたはイーサネット スイッチが自動ネゴシエーションをサポートしている必要があります。

- 自動ネゴシエーションを無効にするには、**No** を選択します。NIC Speed and Duplex Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 16 自動ネゴシエーションを無効にした場合は、ここで適切な NIC 速度および二重設定を手動で選択し、**OK** を選択して続行します。

DHCP Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 17 ネットワーク設定では、ノードとゲートウェイの静的 IP アドレスを設定するか、Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) を使用するかを選択できます。

- ネットワークで DHCP サーバが設定されていて、DHCP を使用する場合は、**Yes** を選択します。システムが再起動し、ネットワークの接続が確認されます。[P.20 の「リモートパッチの取得」](#)に進みます。
- ノードの静的 IP アドレスを設定する場合は、**No** を選択します。Static Network Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 18 DHCP を使用しない場合は、静的なネットワーク設定値を入力し、**OK** を選択します。フィールドの説明については、[表 7](#)を参照してください。

DNS Client Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 19 DNS を有効にするには、**Yes** を選択し、DNS クライアント情報を入力し、**OK** を選択します。フィールドの説明については、[表 7](#) を参照してください。

システムがネットワークを設定し、接続を確認した後、Remote Patch Configuration ウィンドウが表示されます。

リモート パッチの取得

ステップ 20 リモート ファイル サーバの場所とログイン情報を入力します。フィールドの説明については、[表 7](#) を参照してください。ネットワークが再開した後、システムはリモート サーバに接続し、使用可能なアップグレード パッチのリストを取得します。

アップグレード ファイルが Linux サーバまたは Unix サーバ上にある場合は、ディレクトリ パスの先頭にスラッシュを入力する必要があります。たとえば、アップグレード ファイルが patches ディレクトリにある場合は、`/patches` と入力します。アップグレード ファイルが Windows サーバ上にある場合は、システム管理者に正しいディレクトリ パスを確認してください。

Install Upgrade Patch Selection ウィンドウが表示されます。

ステップ 21 インストールするアップグレード パッチを選択します。システムは、パッチをダウンロードし、unpack し、インストールしてから、アップグレードされたソフトウェア バージョンを実行するシステムを再起動します。

システムが再起動した後、Preexisting Configuration Information ウィンドウが表示されます。

既存の設定情報の使用

ステップ 22 フロッピー ディスクまたは USB キーに保管されている既存の設定情報がある場合、ここでディスクまたは USB キーを挿入し、**Continue** を選択します。インストール ウィザードは、インストール プロセス中に設定情報を読み取ります。

Platform Installation Wizard ウィンドウが表示されます。

ステップ 23 **Proceed** を選択して、Platform Installation Wizard を続行します。

Product Installation Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 24 ここでプラットフォームを設定するには、**Proceed** を選択します。

ステップ 25 Upgrade During Install ウィンドウで、**No** を選択します。

ステップ 26 Windows Upgrade ウィンドウで、**No** を選択します。

ステップ 27 Basic Install ウィンドウで、**Continue** を選択します。[P.20](#) の「[基本インストール](#)」に進みます。

基本インストール

ステップ 28 Timezone Configuration が表示されたら、サーバの適切な時間帯を選択し、**OK** を選択します。

Auto Negotiation Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 29 インストールプロセスは、自動ネゴシエーションを使用して、イーサネット ネットワーク インターフェイス カード (NIC) の速度と二重設定を自動的に設定します。この設定は、インストール後に変更できます。

- 自動ネゴシエーションを有効にするには、**Yes** を選択します。DHCP Configuration ウィンドウが表示されます。



(注) このオプションを使用するには、ハブまたはイーサネット スイッチが自動ネゴシエーションをサポートしている必要があります。

- 自動ネゴシエーションを無効にするには、**No** を選択します。NIC Speed and Duplex Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 30 自動ネゴシエーションを無効にした場合は、ここで適切な NIC 速度および二重設定を手動で選択し、**OK** を選択して続行します。

DHCP Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 31 ネットワーク設定では、ノードの静的 IP アドレスを設定するか、Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) を使用するかを選択できます。

- ネットワークで DHCP サーバが設定されていて、DHCP を使用する場合は、**Yes** を選択します。ネットワークが再開し、Administrator Login Configuration ウィンドウが表示されます。
- ノードの静的 IP アドレスを設定する場合は、**No** を選択します。Static Network Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 32 DHCP を使用しない場合は、静的なネットワーク設定値を入力し、**OK** を選択します。フィールドの説明については、表 7 を参照してください。

DNS Client Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 33 DNS を有効にするには、**Yes** を選択し、DNS クライアント情報を入力し、**OK** を選択します。フィールドの説明については、表 7 を参照してください。

新しい設定情報でネットワークが再開し、Administrator Login Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 34 表 6 を参照して、Administrator ログインとパスワードを入力します。



(注) Administrator ログインは、先頭が英文字で、6 文字以上にする必要があります。英数字、ハイフン、下線を使用できます。Administrator ログインは、Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理ページ、コマンドライン インターフェイス、および障害復旧システムへのログインに必要です。

Certificate Signing Request Information ウィンドウが表示されます。

ステップ 35 表 6 を参照して証明書の署名要求情報を入力し、**OK** を選択します。

First Node Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 36 このサーバは、Cisco Unified CallManager クラスタの最初のノードまたは後続ノードとして設定できます。

- このサーバを最初の Cisco Unified CallManager ノードとして設定するには、**Yes** を選択し、P.22 の「最初のノードの設定」に進みます。
- このサーバをクラスタの後続ノードとして設定するには、**No** を選択し、P.23 の「後続ノードの設定」に進みます。

最初のノードの設定

クラスタの最初のノードとしてサーバを設定する場合は、Network Time Protocol Client Configuration ウィンドウが表示されます。最初のノードのシステム時間を正確にするために、外部 NTP サーバを使用することを推奨します。外部 NTP サーバがストラタム 9 またはそれより上位（つまり、ストラタム 1～9）であることを確認してください。クラスタの後続ノードは、最初のノードから時間を取得します。

ステップ 37 外部 NTP を設定するか、手動でシステム時間を設定するか、選択します。

- 外部 NTP サーバを設定するには、**Yes** を選択し、1 つ以上の NTP サーバの IP アドレス、NTP サーバ名、または NTP サーバプール名を入力します。最大 5 つの NTP サーバを設定でき、3 つ以上を使用することを推奨します。**Proceed** を選択して、インストールを続行します。

システムは NTP サーバに接続して、自動的にハードウェアクロックの時間を設定します。



(注) Test ボタンが表示されている場合、**Test** を選択して、NTP サーバにアクセスできるかどうかを確認できます。

- 手動でシステム時間を設定するには、**No** を選択し、適切な日付と時刻を入力し、ハードウェアクロックを設定します。**OK** を選択して、インストールを続行します。

Database Access Security Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 38 表 6 を参照して、Database Access Security パスワードを入力します。



(注) Database Access Security パスワードは、先頭が英数字で、6 文字以上にする必要があります。英数字、ハイフン、下線を使用できます。システムは、このパスワードを使用して、ノード間の通信を認証します。このパスワードは、クラスタ内のすべてのノードで同じにする必要があります。

SMTP Host Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 39 SMTP サーバを設定する場合は、**Yes** を選択し、SMTP サーバ名を入力します。



(注) 特定のプラットフォーム機能を使用するように SMTP サーバを設定する必要があります。ただし、プラットフォーム GUI またはコマンドラインインターフェイスを使用して、後で SMTP サーバを設定することもできます。

Platform Configuration Confirmation ウィンドウが表示されます。

ステップ 40 **OK** を選択してインストールを続行するか、**Back** を選択してプラットフォーム設定を変更します。

OK を選択すると、Application User Password Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 41 表 6 を参照してアプリケーション ユーザ パスワードを入力し、もう一度入力してパスワードを確認します。

ステップ 42 **OK** を選択します。

Cryptographic Export Warning ウィンドウが表示され、ソフトウェアがインストールおよび設定されます。

ステップ 43 インストール プロセスが完了すると、Administrator アカウントとパスワードでログインするように要求するプロンプトが表示されます。

ステップ 44 P.24 の「インストール後の作業」に示すアップグレード後の作業を完了します。

後続ノードの設定

クラスタ内で後続ノードを設定するには、次の手順に従います。



注意

後続ノードをインストールする前に、最初のノードで後続ノードを設定する必要があります。最初のノードの Cisco Unified CallManager の管理ページから [システム] > [サーバ] を選択します。詳細については『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』を参照してください。

First Node Access Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 45 表 6 を参照して、First Node Access Configuration 情報を入力します。

SMTP Host Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 46 SMTP サーバを設定する場合は、**Yes** を選択し、SMTP サーバ名を入力します。



(注) 特定のプラットフォーム機能を使用するように SMTP サーバを設定する必要があります。ただし、プラットフォーム GUI またはコマンドライン インターフェイスを使用して、後で SMTP サーバを設定することもできます。

Platform Configuration Confirmation ウィンドウが表示されます。

ステップ 47 **OK** を選択してソフトウェアのインストールを開始します。または、**Back** を選択して設定を変更します。

ステップ 48 インストール プロセスが完了すると、Administrator アカウントとパスワードでログインするように要求するプロンプトが表示されます。

ステップ 49 P.24 の「インストール後の作業」に示すアップグレード後の作業を完了します。

インストール後の作業

Cisco Unified CallManager をサーバにインストールしたら、使用を開始する前に、Cisco Unified CallManager 用のパラメータの設定など、インストール後の作業を実行しておく必要があります。これらの作業は、クラスタ内のその他のサーバにインストールする前に、インストール対象のサーバに対して実行してください。

インストール後に実行する必要がある作業については、表 8 を参照してください。

表 8 インストール後の作業


インストール後の作業	注意事項
Cisco Unified CallManager アプリケーション ユーザにログインして、アプリケーション ユーザのパスワードを変更します。	P.25 の「 デフォルトの Cisco Unified CallManager アプリケーション ユーザ パスワードの変更 」を参照してください。
実行する Cisco Unified CallManager 機能サービスをアクティブにします。	次の資料を参照してください。
機能サービスをアクティブにする前に、必要なアクティブ化前作業を実行します。たとえば、サーバでサービスをアクティブにする前に、サーバを Cisco Unified CallManager の管理 ページに追加する必要があります（[システム] > Cisco Unified CallManager）。	<ul style="list-style-type: none"> • <i>Cisco Unified CallManager Serviceability</i> アドミニストレーションガイド • <i>Cisco Unified CallManager Serviceability</i> システムガイド
その他のサービス アクティブ化の要件については、『 <i>Cisco Unified CallManager Serviceability</i> アドミニストレーションガイド』を参照してください。	P.25 の「 Cisco Unified CallManager のサービスアビリティ機能へのアクセス 」を参照してください。
 <p>注意 Cisco Unified CallManager サービスは、Cisco Unified CallManager のサービスアビリティ ページでアクティブにする必要があります。</p>	
バックアップ設定を構成します。	
Cisco Unified CallManager データのバックアップは、毎日必ず実行してください。	『 <i>Disaster Recovery System</i> アドミニストレーションガイド』を参照してください。
ロケール English_United_States が自動的にサーバにインストールされますが、必要に応じて新しいロケールをサーバに追加できます。	『 <i>Cisco Unified Communications Operating System</i> アドミニストレーションガイド』を参照してください。
Cisco IP Telephony ネットワークに、認証と暗号化を実装することを推奨します。	『 <i>Cisco Unified CallManager</i> セキュリティガイド』を参照してください。

表 8 インストール後の作業（続き）

インストール後の作業	注意事項
必要な場合、後続の Cisco Unified CallManager ノードをクラスタに追加できます。	<p>後続の Cisco Unified CallManager ノードをクラスタに追加するには、次の作業を実行する必要があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 後続の Cisco Unified CallManager ノードのホスト名または IP アドレスを Cisco Unified CallManager の管理ページに追加して、クラスタのすべての後続ノードを定義します。詳細については『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』を参照してください。 2. 新しいアプリケーションをインストールし、クラスタの後続の Cisco Unified CallManager ノードを設定します。P.8 の「Cisco Unified CallManager のインストール」を参照してください。 <p>すべてのノードで同じセキュリティ パスワードを入力します。</p>

デフォルトの Cisco Unified CallManager アプリケーション ユーザ パスワードの変更

Cisco Unified CallManager インストールでは、すべてのアプリケーション ユーザ パスワードが、インストール中に入力したアプリケーション ユーザ パスワードと同じに設定されます。Cisco Unified CallManager の管理ページにログインし、これらのパスワードを変更することを推奨します。パスワードを変更する手順については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』を参照してください。

Cisco Unified CallManager のサービスアビリティ機能へのアクセス

Cisco Unified CallManager の管理機能または Cisco Unified CallManager のサービスアビリティ機能にアクセスするには、Cisco Unified CallManager サーバにネットワーク アクセスが可能な PC で、Web ブラウザを使用する必要があります。

すべての Cisco Unified CallManager サービスはクラスタ内のすべてのサーバにインストールされますが、クラスタ内の各サーバ上で実行するサービスは、Cisco Unified CallManager のサービスアビリティ ページを使用して、手動でアクティブにする必要があります。サービスに関する推奨事項や詳細については、『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』および『Cisco Unified CallManager Serviceability システム ガイド』を参照してください。

Cisco Unified CallManager のサービスアビリティ ページでサービスをアクティブにするには、次の手順に従います。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CallManager サーバにネットワーク アクセスできる PC で、Web ブラウザを開きます。

ステップ 2 次の URL を入力します。

`http://ccm_server:8080/ccmadmin`

ここで、`ccm_server` には、Cisco Unified CallManager サーバの IP アドレスまたはホスト名を指定します。

- ステップ3** Cisco Unified CallManager のアプリケーション ユーザ名およびパスワードを入力します。
- ステップ4** [ナビゲーション] メニューから、[Cisco Unified CallManager のサービスアビリティ] を選択し、Go をクリックします。
- ステップ5** メニューバーで、Tools > Service Activation をクリックします。
- ステップ6** ドロップダウン メニューからサーバを選択します。
- ステップ7** アクティブにするサービスの Service Name チェックボックスをオンにします。
- ステップ8** Save をクリックします。

データベースの設定

Cisco Unified CallManager のインストール後に、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用して、データベースの設定を開始することができます。Cisco Unified CallManager データベースには、システム全体、接続されているデバイス、および個々のユーザに関連した情報とパラメータが格納されています。次のリストは、Cisco Unified CallManager の管理ページまたは Cisco Unified CallManager のサービスアビリティ ページで実行する必要がある作業を示しています。

1. Cisco Unified CallManager のサービスアビリティ ページで、クラスタ内の各サーバ上で実行するサービスをアクティブにします。
2. Cisco Unified CallManager グループなど、システムレベルの設定値を構成します。
3. ダイヤル プランを設計し、設定します。
4. 会議や Music On Hold などのメディア リソースを設定します。
5. システム全体の機能、Cisco Unified IP Phone サービス、Cisco Unified CallManager エクステンションモビリティ、Cisco Unified CallManager Attendant Console、および Cisco Unified CallManager Assistant を設定します。
6. ゲートウェイをインストールし、設定します。
7. Computer Telephony Integration (CTI; コンピュータ テレフォニー インテグレーション) アプリケーションのサポートを有効にして、必要な CTI アプリケーションをインストールし、設定します。
8. ユーザを設定します。
9. 電話を設定およびインストールしてから、ユーザを電話に関連付けます。

Cisco Unified CallManager データベースの設定の詳細については、『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』、『Cisco Unified CallManager システムガイド』、または Cisco Unified CallManager アプリケーションのオンライン ヘルプを参照してください。

ログファイルの検査

インストールで問題が発生した場合は、コマンドライン インターフェイスで次のコマンドを入力し、インストール ログ ファイルを取得して検査できます。

インストール ログ ファイルのリストをコマンドラインから取得するには、次のように入力します。

```
CLI>file list install
```

ログ ファイルをコマンドラインから表示するには、次のように入力します。

```
CLI>file view install log_file
```

ここで、*log_file* はログ ファイル名です。

Cisco Unified CallManager リアルタイム監視ツール (RTMT) を使用して、ログを表示することもできます。Cisco Unified CallManager RTMT の使用およびインストールの詳細については、『*Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド*』を参照してください。

技術情報の入手方法

シスコの製品マニュアルやその他の資料は、Cisco.com でご利用いただけます。ここでは、シスコが提供する製品マニュアル リソースについて説明します。

Cisco.com

次の URL から、シスコ製品の最新資料を入手することができます。

<http://www.cisco.com/techsupport>

シスコの Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com>

各国のシスコ Web サイトには、次の URL からアクセスできます。

http://www.cisco.com/public/countries_languages.shtml

シスコ製品の最新資料の日本語版は、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/jp>

このマニュアルには、日本語化されたマニュアル名と英語版 URL が併記された箇所があります。日本語版マニュアルを参照する場合は、次の URL にアクセスしてください。

http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/service/manual_j/index.shtml

Product Documentation DVD (英語版)

Product Documentation DVD は、技術情報を包含する製品マニュアルをポータブルなメディアに格納したライブラリです。この DVD を使用することにより、シスコ製の各ハードウェアやソフトウェアのインストール、コンフィギュレーション、およびコマンドに関するマニュアルにアクセスすることができます。また、この DVD を使用すると、次の URL のシスコの Web サイトに掲載されている HTML マニュアルおよび PDF ファイルにアクセスすることができます。

<http://www.cisco.com/univercd/home/home.htm>

Product Documentation DVD は定期的に作成され、リリースされます。DVD は、1 回単位で入手することも、または定期購読することもできます。Cisco.com 登録ユーザの場合、Product Documentation Store の Cisco Marketplace から Product Documentation DVD (Product Number DOC-DOCDVD= または DOC-DOCDVD=SUB) を発注できます。次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/docstore>

マニュアルの発注方法 (英語版)

Cisco Marketplace にアクセスするには、Cisco.com 登録ユーザである必要があります。登録ユーザの場合、Product Documentation Store からシスコ製品の英文マニュアルを発注できます。次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/docstore>

ユーザ ID またはパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://tools.cisco.com/RPF/register/register.do>

シスコシステムズマニュアルセンター

シスコシステムズマニュアルセンターでは、シスコ製品の日本語マニュアルの最新版を PDF 形式で公開しています。また、日本語マニュアル、および日本語マニュアル CD-ROM もオンラインで発注可能です。ご希望の方は、次の URL にアクセスしてください。

<http://www2.hipri.com/cisco/>

また、シスコシステムズマニュアルセンターでは、日本語マニュアル中の誤記、誤植に関するコメントをお受けしています。次の URL の「製品マニュアル内容不良報告」をクリックすると、コメント入力画面が表示されます。

<http://www2.hipri.com/cisco/>

なお、技術内容に関するお問い合わせは、この Web サイトではお受けできませんので、製品を購入された各代理店へお問い合わせください。

シスコ製品のセキュリティの概要

シスコでは、オンラインの Security Vulnerability Policy ポータル（英文のみ）を無料で提供しています。URL は次のとおりです。

http://www.cisco.com/en/US/products/products_security_vulnerability_policy.html

このサイトは、次の目的に利用できます。

- シスコ製品のセキュリティ脆弱性を報告する。
- シスコ製品に伴うセキュリティ事象についてサポートを受ける。
- シスコからセキュリティ情報を受け取るための登録をする。

シスコ製品に関するセキュリティ勧告、セキュリティ上の注意事項、およびセキュリティ対策の最新のリストには、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/go/psirt>

セキュリティ勧告、セキュリティ上の注意事項、およびセキュリティ対策がアップデートされた時点でリアルタイムに確認する場合は、次の URL から Product Security Incident Response Team Really Simple Syndication (PSIRT RSS) フィードに登録してください。PSIRT RSS フィードへの登録方法については、次の URL を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/products_psirt_rss_feed.html

シスコ製品のセキュリティ問題の報告

シスコでは、セキュアな製品を提供すべく全力を尽くしています。製品のリリース前には内部でテストを行い、すべての脆弱性を早急に修正するよう努力しています。万一、シスコ製品に脆弱性が見つかった場合は、PSIRT にご連絡ください。

- 緊急の場合のみ: security-alert@cisco.com（英語のみ）
緊急とは、システムがアクティブな攻撃を受けている場合、または至急の対応を要する重大なセキュリティ上の脆弱性が報告されている場合を指します。これに該当しない場合はすべて、緊急でないと見なされます。
- 緊急でない場合: psirt@cisco.com（英語のみ）

緊急の場合は、電話で PSIRT に連絡することもできます。

- 1 877 228-7302（英語のみ）
- 1 408 525-6532（英語のみ）



ヒント

シスコに機密情報をお送りいただく際には、PGP (Pretty Good Privacy) または GnuPG などの互換製品を使用して、暗号化することをお勧めします。PSIRT は、PGP バージョン 2.x から 9.x で暗号化された情報に対応しています。

無効になった暗号鍵または有効期限が切れた暗号鍵は、絶対に使用しないでください。PSIRT に連絡する際に使用する正しい公開鍵には、Security Vulnerability Policy ページの Contact Summary セクションからリンクできます。次の URL にアクセスしてください。

http://www.cisco.com/en/US/products/products_security_vulnerability_policy.html

このページ上のリンクからは、現在使用されている最新の PGP 鍵の ID にアクセスできます。

PGP を持っていない、または使用していない場合は、機密情報を送信する前に PSIRT に問い合わせ、他のデータ暗号化方法を確認してください。

Product Alerts および Field Notices

シスコ製品に対する変更やアップデートは、Cisco Product Alerts および Cisco Field Notices で発表されます。Cisco.com のプロダクト アラート ツールを使用すると、Cisco Product Alerts および Cisco Field Notices を受け取ることができます。このツールを使用すれば、プロフィールを作成して、情報を受け取る製品を選択できます。

プロダクト アラート ツールにアクセスするには、Cisco.com の登録ユーザとなる必要があります (Cisco.com にユーザ登録するには、<http://tools.cisco.com/RPF/register/register.do> にアクセスします)。登録ユーザは、<http://tools.cisco.com/Support/PAT/do/ViewMyProfiles.do?local=en> でこのツールを使用できます。

テクニカル サポート

Cisco Technical Support では、24 時間テクニカル サポートを提供しています。Cisco.com の Cisco Technical Support & Documentation Web サイトでは、多数のサポート リソースをオンラインで提供しています。また、シスコと正式なサービス契約を交わしているお客様には、Cisco Technical Assistance Center (TAC) のエンジニアが電話でのサポートにも対応します。シスコと正式なサービス契約を交わしていない場合は、代理店にお問い合わせください。

Cisco Technical Support & Documentation Web サイト

Cisco Technical Support & Documentation Web サイトでは、シスコ製品やシスコの技術に関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、オンラインでマニュアルやツールを提供しています。この Web サイトは、24 時間、いつでも利用可能です。URL は次のとおりです。

<http://www.cisco.com/techsupport>

Cisco Technical Support & Documentation Web サイトのツールにアクセスするには、Cisco.com のユーザ ID とパスワードが必要です。サービス契約が有効で、ユーザ ID またはパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://tools.cisco.com/RPF/register/register.do>



(注)

オンラインまたは電話でサービス リクエストを発行する前に、**Cisco Product Identification Tool** を使用して製品のシリアル番号を確認してください。Cisco Technical Support & Documentation Web サイトでこのツールを使用するには、**Tools & Resources** リンクをクリックし、**All Tools (A-Z)** タブをクリックした後、アルファベット順のリストから **Cisco Product Identification Tool** を選択します。このツールには、3 つの検索オプションがあります。製品 ID またはモデル名による検索、ツリー表示による検索、**show** コマンド出力のコピー アンド ペーストによる特定製品の検索です。検索結果では、製品が図示され、シリアル番号ラベルの位置が強調表示されます。ご使用の製品でシリアル番号ラベルを確認し、その情報を記録してからサービス コールをかけてください。



ヒント

Cisco.com での表示および検索

ブラウザが Web ページをリフレッシュしていないと思われる場合は、Ctrl キーを押したまま F5 を押すことで強制的にブラウザに Web ページを更新させます。

技術情報を検索する場合は、Cisco.com の Web サイト全体ではなく、技術マニュアルに検索対象を絞り込みます。Cisco.com のホームページで、Search ボックスの下にある **Advanced Search** リンクをクリックし、**Technical Support & Documentation** オプション ボタンをクリックしてください。

Cisco.com の Web サイトまたは特定の技術マニュアルに関するフィードバックを送るには、Cisco.com のすべての Web ページの下部にある **Contacts & Feedback** をクリックします。

Japan TAC Web サイト

Japan TAC Web サイトでは、利用頻度の高い TAC Web サイト (<http://www.cisco.com/tac>) のドキュメントを日本語で提供しています。Japan TAC Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/jp/go/tac>

サポート契約を結んでいない方は、「ゲスト」としてご登録いただくだけで、Japan TAC Web サイトのドキュメントにアクセスできます。Japan TAC Web サイトにアクセスするには、Cisco.com のログイン ID とパスワードが必要です。ログイン ID とパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://www.cisco.com/jp/register>

サービス リクエストの発行

オンラインの TAC Service Request Tool を使用すると、S3 と S4 のサービス リクエストを短時間でオープンできます (S3: ネットワークに軽微な障害が発生した、S4: 製品情報が必要である)。状況を入力すると、その状況を解決するための推奨手段が検索されます。これらの推奨手段で問題を解決できない場合は、シスコのエンジニアが対応します。TAC Service Request Tool には、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/techsupport/servicerequest>

S1 または S2 のサービス リクエストの場合、またはインターネットにアクセスできない場合は、Cisco TAC に電話でお問い合わせください (S1: ネットワークがダウンした、S2: ネットワークの機能が著しく低下した)。S1 および S2 のサービス リクエストには、シスコのエンジニアがすぐに割り当てられ、業務を円滑に継続できるようサポートします。

Cisco TAC の連絡先については、次の URL を参照してください。

<http://www.cisco.com/techsupport/contacts>

サービス リクエストのシビラティの定義

シスコでは、報告されるサービス リクエストを標準化するために、シビラティを定義しています。

シビラティ 1 (S1): 既存のネットワークが「ダウン」した状態か、業務に致命的な損害が発生した場合。お客様およびシスコが、24 時間体制でこの問題を解決する必要があると判断した場合。

シビラティ 2 (S2): 既存のネットワーク動作が著しく低下したか、シスコ製品が十分に機能しないため、業務に重大な影響を及ぼした場合。お客様およびシスコが、通常の業務中の全時間を費やして、この問題を解決する必要があると判断した場合。

シビラティ 3 (S3): ネットワークの動作パフォーマンスが低下しているが、ほとんどの業務運用は継続できる場合。お客様およびシスコが、業務時間中にサービスを十分なレベルにまで復旧させる必要があると判断した場合。

シビラティ 4 (S4): シスコ製品の機能、インストラクション、コンフィギュレーションについて、情報または支援が必要な場合。業務の運用には、ほとんど影響がありません。

その他の資料および情報の入手方法

シスコの製品、テクノロジー、およびネットワーク ソリューションに関する情報について、さまざまな資料をオンラインおよび印刷物で入手できます。

- Cisco Online Subscription Center は、シスコの E メール ニュースレターなどに登録できる Web サイトです。プロフィールを作成して、受け取る情報を選択できます。Cisco Online Subscription Center には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/offer/subscribe>
- 『Cisco Product Quick Reference Guide』は手軽でコンパクトな参照ツールです。チャネルパートナー経由で販売される多くのシスコ製品に関する簡単な製品概要、主要な機能、サンプル部品番号、および簡単な技術仕様を記載しています。年 2 回の更新の際には、シスコ製品の最新情報が収録されます。『Cisco Product Quick Reference Guide』の注文方法および詳細については、次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/guide>
- Cisco Marketplace では、シスコの書籍やリファレンス ガイド、マニュアル、ロゴ製品を数多く提供しています。購入を希望される場合は、次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/>
- Cisco Press では、ネットワーク全般、トレーニング、および認定資格に関する出版物を幅広く発行しています。これらの出版物は、初級者にも上級者にも役立ちます。Cisco Press の最新の出版物やその他の情報を調べるには、次の URL から Cisco Press にアクセスしてください。

<http://www.ciscopress.com>
- 『Internet Protocol Journal』は、インターネットおよびイントラネットの設計、開発、運用を担当するエンジニア向けに、シスコが発行する季刊誌です。『Internet Protocol Journal』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/ipj>
- シスコシステムズが提供するネットワーキング製品、および各種のカスタマー サポート サービスは、次の URL から入手できます。

<http://www.cisco.com/en/US/products/index.html>
- Networking Professionals Connection は対話形式の Web サイトです。このサイトでは、ネットワーキング製品やテクノロジーに関する質問、提案、および情報をネットワーキング担当者がシスコの専門家や他のネットワーキング担当者と共に共有できます。次の URL にアクセスしてディスカッションに参加してください。

<http://www.cisco.com/discuss/networking>
- 「What's New in Cisco Documentation」は、シスコ製品の最新のマニュアルリリースに関する情報を提供するオンライン出版物です。このオンライン出版物は毎月更新され、製品カテゴリ別に編成されているため、製品のマニュアルを簡単に検索できます。次の URL で「What's New in Cisco Documentation」の最新リリースを見ることができます。

<http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/abtnucd/136957.htm>
- シスコは、国際的なレベルのネットワーク関連トレーニングを実施しています。最新情報については、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/en/US/learning/index.html>

CCVP, the Cisco Logo, and the Cisco Square Bridge logo are trademarks of Cisco Systems, Inc.; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn is a service mark of Cisco Systems, Inc.; and Access Registrar, Aironet, BPX, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Enterprise/Solver, EtherChannel, EtherFast, EtherSwitch, Fast Step, Follow Me Browsing, FormShare, GigaDrive, GigaStack, HomeLink, Internet Quotient, IOS, IP/TV, iQ Expertise, the iQ logo, iQ Net Readiness Scorecard, iQuick Study, LightStream, Linksys, MeetingPlace, MGX, Networking Academy, Network Registrar, *Packet*, PIX, ProConnect, RateMUX, ScriptShare, SlideCast, SMARTnet, StackWise, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, and TransPath are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or Website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company.(0609R)

Copyright © 2006 Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.

お問い合わせは、購入された各代理店へご連絡ください。

シスコシステムズでは以下のURLで最新の日本語マニュアルを公開しております。
本書とあわせてご利用ください。

Cisco.com 日本語サイト

http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/service/manual_j/

日本語マニュアルの購入を希望される方は、以下のURLからお申し込みいただけます。

シスコシステムズマニュアルセンター

<http://www2.hipri.com/cisco/>

上記の両サイトで、日本語マニュアルの記述内容に関するご意見もお受けいたしますので、
どうぞご利用ください。

なお、技術内容に関するご質問は、製品を購入された各代理店へお問い合わせください。



シスコシステムズ株式会社

URL:<http://www.cisco.com/jp/>

問合せ URL:<http://www.cisco.com/jp/service/contactcenter/>

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-14-27 国際新赤坂ビル東館

TEL.03-5549-6500 FAX.03-5549-6501